

学校教育目標	「向学 自立 協働」
目指す学校像	「活気にあふれ、あいさつがとびかう明るい学校」「学ぶ喜びを実感できる学校」「安全を意識して、安心感をもって生活できる学校」

重点目標	1 ICTを活用した個別最適な学びと喜びが実感できる協働的な学びの実現 2 積極的な生徒指導ときめ細かな教育相談体制の充実 3 信頼され、地域とともにある学校づくりの推進 4 安全を意識して、安心感をもって生活できる学校づくり 5 指導力を持ち、信頼関係を基盤にした教育活動に取り組む教職員の資質向上
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心をサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

学校自己評価							学校運営協議会による評価
年度目標							実施日令和8年2月17日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p>(現状) ○令和6年度全国学力・学習状況調査：全国平均正答率において、国語は僅差で下回っている。数学においては若干上回っている。</p> <p>○令和6年度全国学力・学習状況調査 領域等別・観点別調査結果：国語では、読むこと、数学では図形、関数が全国を大きく上回っている。市との比較では全体的に下回っている。</p> <p>(課題) ○基礎学力の向上が必須。特に国語では書くこと、数学ではデータ活用の向上。 ○学習の仕方を提示し、家庭学習を含めた継続的な学習習慣を身に付けることが必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学びの実態を把握し、それを踏まえた個別最適な学びの向上 学ぶ喜びを実感できる協働的な学びの実施 	<ul style="list-style-type: none"> TTの授業により効果的に学力向上につなげていく。 学習アプリ等を学校や家庭で活用し、個別最適な学習を進め、基礎学力の向上を図る。 川通チャレンジカップを年3回実施し学びに向かう姿勢を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価(生徒・保護者)「家庭学習や基礎学力の定着」に係る項目で、肯定的な回答が昨年度を上回ったか。 基本事項の繰り返し指導や授業の振り返りなどを継続して行い、生徒それぞれの学習への取組状況を確認し、個々の努力を承認できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価(生徒・保護者)「家庭学習や基礎学力の定着」に係る項目で、肯定回答の平均が昨年度より約3%下回った。 川通チャレンジカップや日々の授業の達成度を図る小テスト、授業後の振り返りや提出物等により個々の学びの成果を確認し努力の状況を承認できている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習について「小中連携でできることはないか」小中担当者同士で情報を交換し課題を洗い出し、苦手なことについて克服していく。 個人で学習を進めるうえでのHow toを定着していく。例えば、普段の授業のノート作り、試験前のまとめ方・学習法、学習計画等、浸透するよう教科の枠をこえて検証する。
2	<p>(現状) ○令和6年度学校評価：生徒「将来の進路について考えることがあるか」の項目 A 評価 46.2%。 ○令和6年度学校評価：生徒「あいさつを積極的にやっているか」A 評価 71.3%、「十分な睡眠をとり規則正しい生活を送っているか」A 評価 44.9% ○令和6年度学校評価：生徒「困ったことや悩んでいることがあった場合親身になって相談に乗ってくれるか」A 評価 67.2%、保護者「いじめやその他の相談事に適切に対応しているか」A 評価 17.1% ○生徒指導や教育相談に関する対応について、該当学年を中心に組織的に迅速に対応している。(課題) ○進路に対して考えているものの具体的なビジョンについては乏しい。 ○配慮を要する生徒個々への対応。 ○個に応じた支援や相談体制のより一層の確立。</p>	<ul style="list-style-type: none"> エージェンシーを発揮し、夢に向かって活躍する生徒の育成 積極的で、きめ細かな生徒指導の推進・教育相談の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 社会生活に必要なコミュニケーション能力、基本的な生活習慣を培っていく。 将来の社会的・職業的自立に向けた必要な基盤となる能力や態度を、領域のみならず、教科横断的計画し、キャリア教育を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価(生徒・保護者)の「あいさつ」「規則正しい生活」に関する項目で肯定的な回答が昨年度を上回ったか。 学校評価(生徒・保護者・教員)「キャリア教育」の項目で、A 評価の平均が昨年度を上回ったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価(生徒・保護者)の「あいさつ」「規則正しい生活」に関する項目で肯定回答の平均が昨年度を6%下回った。 学校評価(生徒・保護者・教員)「キャリア教育」の項目で、A 評価の平均が昨年度より7%上回った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 家庭との連携を大切にしながら、基本的な生活習慣の向上、あいさつの励行を様々な場面で推進していく。 次年度は川通キャリア教育の充実を目指し、生徒のエージェンシーが高まる取組やカリマネデザインマップ等の活用を通して、教科横断的に積極的に進めていく。
3	<p>(現状) ○本校は地域の伝統校として認知されており、地域が学校にたいへん協力的である。そのため、地域と連携を図った教育活動が企画しやすい環境下にある。 ○令和6年度学校評価：生徒「地域の一員」肯定評価74.4% (課題) ○保護者からの視点では、生徒が地域に関心を持ったり生徒自身ができることを考えたりすることの意識が低いと感じている。(学校評価：肯定評価52.7%) ○学校HPにおいては閲覧数が前年度より増加しているが、行事以外の学校公開日に来校する方が少ない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会を軸にした地域と連携した教育活動の展開 開かれた学校づくりの推進 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒を地域の行事や活動にボランティアとして積極的に派遣し地域とのかかわりをより多く、強くする。 「フィールドワーク」や「未来くるワーク体験」、地域の人材を活用した「未来くる先生」を通して、地域の人と関わりを深くする。 保護者・地域に向けて、教育活動の参観、公開を多く設定する 学校HPや保護者への通信アプリを活用し、最新の情報が保護者や地域に届くようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動やボランティア活動等で、生徒が参加できる機会を設定できたか。 学校評価(生徒・保護者)「地域の一員」に関する項目で、肯定的な回答が昨年度を上回ったか。 毎学期、保護者の来校機会を多く設定できたか。 学校評価(保護者)「学校からの情報発信」の項目で A 評価が昨年度を上回ったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動やボランティア活動等に生徒が積極的に参加できるよう学校地域連携コーディネータを介してシステムを整えた。また、各所から、ボランティア活動に係る生徒の派遣要請があり、生徒たちも積極的に活動し好評を得た。 学校評価(生徒・保護者)「地域の一員」に関する項目において、肯定的な回答の平均が昨年度を上回った。特に生徒よりも保護者の方が高評価であった。 体育祭、合唱祭、防災フェアは保護者・地域から多くの方が訪れた。 学校評価(保護者)「学校からの情報発信」の項目において、A 評価が昨年度を8%上回った。特にHP 川中ブログのアクセス数は、103700を超えた 	A	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動における地域への積極的な働きかけと生徒への呼びかけを通して、ボランティア登録者を増やすとともに生徒がやりがいをもって地域に貢献していけるようサポートしていく。 フィールドワークや未来くるワーク、防災フェア、ボランティア活動を通して、生徒が地域の一員であるという意識の醸成を図っていく。
4	<p>(現状) ○安全・安心を意識して生活している。自転車に起因する他者との大きな交通事故は起きていない。 ○学校評価「防災への意識」生徒・保護者 A 評価平均67% ○校舎内外施設の老朽化が目立つ。 (課題) ○自転車の乗り方のマナー指導の徹底をはじめ、学校周囲の環境に関わる安全指導の必要性。 ○国道16号線増戸の手押し信号の廃止による通学路の変更に係る影響。 ○有事における生徒及び教職員の行動。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 安全安心な教育環境の整備及び適切な学校管理 安全な生活実現に向け、主体的に取り組む生徒の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 複数の目を通して、校舎内外の危険箇所を視視、触手にて安全確認し危険と箇所、破損箇所は迅速に対処する。 警察署監修の防犯訓練を実施する。 季節の花が咲き、心潤う環境を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検を確実に実施し、素早い修繕ができたか。 有事を想定した防犯訓練を実施できたか。 1年間を通して、季節の花や緑が絶えないようにすることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の安全点検の他に日々の点検を通して、生徒が安全に過ごせるよう実施し、素早い修繕ができた。 小学校と合同で有事を想定した防犯訓練を実施した。 学校評価(保護者)「緑化等」では A 評価が昨年度より14%向上した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 校舎内外の老朽化が目立ってきているので、安全を第一に計画的に修繕を進めていく。大きなものは、教育委員会に働きかけ、生徒が安心・快適に過ごせる学校づくりをしていく。 次年度も、いざというときに適切な行動ができるよう、有事を想定した訓練を重ねていく。 体育館前のスペースに四季折々の花々が咲くよう整備していく。
5	<p>(現状) ○教職員学校評価：「学校課題研究の効果的実施」「校内研修の効果的実施」：肯定評価平均94%以上だが A 評価の割合は平均すると、およそ24%である。 ○教職員のキャリア平均年齢が若い。 (課題) ○全教職員で取り組む学校課題研究等での新たな学び合いと教職員の資質・組織力の向上。 ○キャリア年数の少ない教員への指導法の継承。 ○働き方改革をさらに推進し、教職員の負担感の減少。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 指導力を持ち、信頼関係を基盤にした教育活動に取り組む教職員の資質向上 	<ul style="list-style-type: none"> 講師を招聘して、キャリア教育スタートアップ研修を実施しキャリア教育を進めていく上で方向性を確認する。 学力向上カウンセリング研修を通して、生徒の正確な実態把握及び指導力向上につなげる。 在校時間システムの集計結果を基に月ごとの仕事量を振り返り、計画的かつ健康的に仕事に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 講師を招聘した研修を実施することで、今後の指導に生かすことができたか。 学校評価(教職員)「校内研修」「目指す教師像」の項目で肯定的な回答が昨年度を上回ったか。 学校評価(教職員)「業務改善」の項目で、A 評価が昨年度を上回ったか。 	<ul style="list-style-type: none"> キャリアデザインマップを作成し社会的・職業的自立に向けた必要な基盤となる能力や態度が身に付けられるよう様々な場面でキャリア教育の種をまくことができた。 肯定回答平均が、昨年度より6.5%上回った。 若干であるが、A 評価が昨年度を上回った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 次年度のキャリア教育の発表を目指して、今年度から基盤を固めるべく進めてきた取組をより発展させ、川通中のスタンダードスタイルになるよう実を結ばせていく。 目指す教師像「一人ひとりの生徒に目をかけ寄り添った指導ができる教師」「研修に前向きに取り組む人としての手本となる教師」「信頼関係を基盤とした、組織的な教育活動に取り組める教師」を目指して進捗していく。 ONとOFFのすみ分けをし、計画性をもったスマートな業務を遂行していく。

学校と家庭で生徒の学力を支えていくことが大切である。
 学力向上・家庭学習の習慣化については、小学校・中学校の9年間を見通した連携が必要と考える。
 学校で学習したことを反復練習するところは、家庭である。家庭での教育力の向上が求められる。
 家庭学習については、小学校からの習慣づけが必要。地域とともに取り組んでいくこともよいのでは。

次年度に向けての課題や改善策で、「いじめはある」というスタンスに賛同する。しっかりと迅速に組織的に対応してもらいたい。
 中学校の見守り体制等学校の姿勢に好感をもっている。
 民生委員・民生児童委員・他機関との連携を引き続きお願いしたい。

様々な行事において、生徒が体験する機会を設けている。実行委員などの役割を通して、生徒のエージェンシーを育てていく上で、効果的であると感している。
 未来くるワークなど学校では教えられない体験活動を行うことは重要であるととらえている。

物の整備のみならず、緑化や季節の花を植えることで、生徒の心を潤す環境が整備されることに、新たな視点を見出した。小学校でも取り入れた。
 通学路に新設された交差点の横断について、安全面を心配している。生徒への注意喚起のみならず、ドライバーへの注意喚起や大型車左折時の巻き込み防止策を関係各所に求めたい。

生徒用のタブレットパソコンが新規に入れ替えられることにより、扱い方や活用方法などを再度指導することが必要になってくる。生徒たちのパソコンのスキルが軌道に乗るまでの間、教員が丁寧に時間をかけて準備をしていることに、改めて感謝したい。